

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年10月7日
タイトル	水土里ネット福山で新規就農！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年9月8日（木）福山市箕島町にある釣ヶ端新開地区で新規就農されている若井克司さんへ広島県土地改良事業団体連合会が広報誌へ記事を掲載するため取材をされるので同行しました。

この箕島町釣ヶ端新開地区は、福山市の市街地に近く約40haの畑地で水土里ネット福山が施行したかんがい事業によりパイプラインが張り巡らされており、疏水百選にも選ばれた七社頭首工用水の受益により、地域ブランドのほうれんそうや金時にんじんなどが栽培されています。



若井克司さん

若井さんは福山市出身で大学進学により県外に出られ関西の会社に就職。結婚や子どもさんが産まれたことがきっかけとなり、子どもに安心安全な「食」をとの思いや自身の退職後のことを考え、農業に取り組みたいと思い会社を退職し滋賀県の農業法人に就職され小松菜などの葉物野菜を学びました。独立して農業をしようと考えていた時たまたまインターネットで故郷の福山でほうれんそうの新規就農者募集の記事を目にし、面接を受けるため福山へ帰郷されました。

初年度は70aのほ場にほうれんそうを作付し、露地栽培が初めてだったこともあり思っていた収穫量の3割ほどしか収穫できませんでしたが、元々サラリーマン時代は半導体の技術者だったこともあり、農業でも栽培方法などデータの蓄積と細やかな研究を重ねていき、年々収穫量が多くなり6年目の今年は120aのほ場に15棟のハウスで基本のほうれんそうを栽培し、学校給食の食材も栽培しておられます。

ほうれんそうの栽培は生活の基盤となるものでドンドン生産して出荷し、それとは別に農業を始めるきっかけでもある「子ども達に安心・安全でおいしい食物を」との思いから、主にとうもろこしなどの野菜を学校給食に納入しており、これらの野菜は農薬を減らすなど採算を考えずに栽培しておられます。

また、福山市農協の瀬戸グリーンセンターの産直市へ出荷され、収穫したての甘いとうもろこしが評判となりほ場にあるハウスまで直接買いに来られる方もおられるそうです。





新規就農で苦労したことをお聞きしたところ、地域や農業者の方とコミュニケーションを取る事と
 言っておられました。

大勢の人と話をすると思いがけず情報を得ることが
 できるそうです。

この日もカラス対策の方法が話題になり、試して
 みようと言っておられました。

若井さんは、サラリーマンを経験されたことで従来の農業にはない合理的な視点や技術者として緻密なデータの
 集積やアイデアで新しい栽培方法にチャレンジするなど、これからのご活躍が楽しみです。話をお聞きしていると
 農業が大好きなのが伝わってきました。

箕島町釣ヶ端新開工区は、水土里ネット福山が事業を施行し七社頭首工より農業用水をパイプラインで供給して
 いることから、七社用水の事など話をさせていただきました。以前おられた農業法人では水利権で苦労されたこと
 がありパイプラインで用水を使用できることをとても喜んでおられました。

今年度から施行する農地耕作条件改善事業により、若井さんをはじめ水土里ネット福山の組合員の農作業が今ま
 で以上に効率的になることを願っています。

七社用水の素晴らしさ、箕島町の魅力をもっといろんなところで伝えたいと言われ、21世紀土地改良区創造運動
 にも繋がると思い活動の内容をお話したところ、今後は協力して魅力を発信していこうと意気投合しました。

当地区で今年度から施行している事業

【箕島1期地区 農地耕作条件改善事業】

総事業費 160,000千円

事業内容 農業用排水施設整備 排水路L=2.80km（地区内のほぼ全長）

事業期間 平成28年度から平成30年度

本地区は、昭和40年代に60haの農業構造改善事業が施行され農道、水路、畑地灌漑施設の整備
 や区画整理が行われた地区であります。

しかし、施設の老朽化が著しく施設の長寿命化を図る農業基盤整備事業実施が必要となり、農業
 経営規模の拡大及び遊休農地解消のため事業に取り組むものです。

○事業イメージ



土水路



三面コンクリート水路

